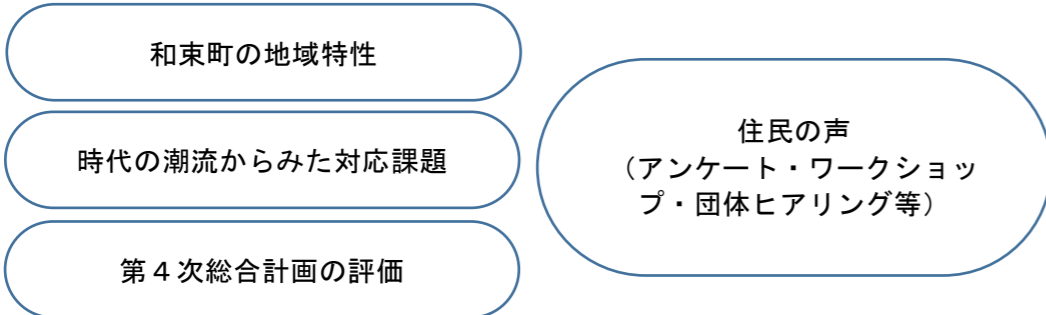


前回の審議会の内容

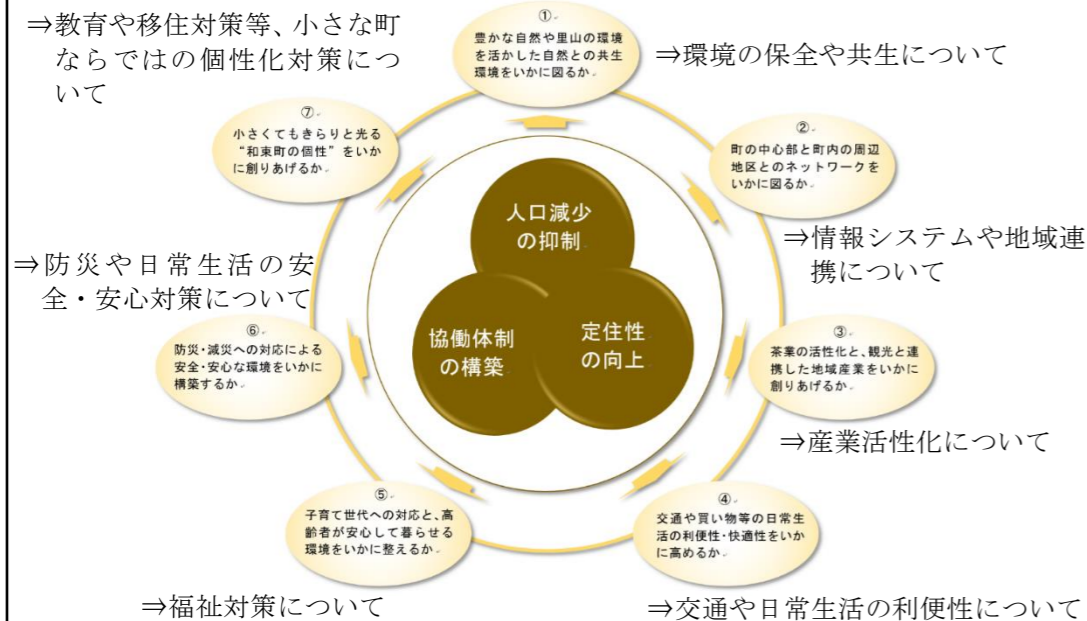
和東町の近年の状況や、住民の方々の様々な声、それに、第4次総合計画の評価等を踏まえ、次期総合計画策定に向けた基本的な課題認識は、大きくは次の3つという結論でした。

- ①人口減少の抑制 ②定住性の向上 ③地域ぐるみでの協働体制づくり

また、(仮称)犬打峠トンネルの開通インパクトを活かした茶源郷としての新しいステージづくりと、“教育”・“移住”というキーワードが非常に重要であるという意見をいただきました。



3つの基本的課題と7つの部門別課題



本日の議論

第5次和東町総合計画の「基本構想」を議論していただきます。「基本構想」とは、今後10年間を見据えた、本町の基本的なまちづくりの方向を示すものとなります。

その主な内容は下記に示す4項目になり、この方向づけが決まった段階で、次のステップとなる「基本計画」を検討していくこととなります。

「基本構想」を構成する要素

1. まちづくりの理念と将来像

新たなステージとしての茶源郷のまちづくりに関する基本的な考え方(理念)と、将来の目指すべきまちの姿を明確にするものです。

2. 将来人口・交流人口

政策目標としての将来人口(町民や関係人口等)と、今後の戦略的なまちづくりを進めるために重要となる交流人口(観光客等)を定めるものです。

3. 将来の地域構造

将来像に基づき、町全体の土地利用や拠点、またそれらのネットワークの考え方等の、地域構造を明らかにするものです。

4. 施策の体系

将来像達成に向けて、各部門別(例えば環境保全、産業振興、住宅対策、福祉対策等)の施策を、どのような組み合わせで構成していくのかという考え方を示すものです。

次回以降の議論

基本構想で示された「施策の体系」に基づき、前期基本計画(令和3年~7年度)として、当面5ヵ年の中で取り組むべき具体的な内容について示していくものです。

その中でも当面何を重視するか、という視点から「重点プロジェクト」を設定し、地域ぐるみでの取り組むべき内容を明らかにします。

「基本計画」と「総合戦略」

基本計画(前期)

当面5ヵ年の部門別施策の内容を明らかにします。また、各部門の数値目標を掲載し、定量的評価ができる仕組みをつくりま

第2期地方創生総合戦略

当面5ヵ年の中で“何を重視していくのか!”ということを明確にし、総合計画と第2期総合戦略とを一体的に策定します。

## (参考) 近い将来の和束町に関する内外の大きな変化要因

近い将来、和束町にとって大きな変化として、一つは「(仮称)犬打峠トンネル」が開通し周辺地域との関係が大きく変わってくることで、もう一つは、現在老朽化している社会福祉センターや国保診療所等の施設を複合化し、町のシンボリックな施設として「(仮称)総合保健福祉施設」の整備を行うこととなっています。

### (仮称) 犬打峠トンネルの開通

現在、本町から最も近い高速道路 I C は、京奈和自動車道の木津 I C (約 25 分) ですが、令和 5 年度に新名神高速道路が開通すると、宇治田原 I C (仮称) が最も近い I C となります。新名神高速道路の開通予定に合わせ、平成 29 年度から、犬打峠のトンネルを含むバイパス道路の整備が始まっています。完成後は、和束町役場から宇治田原 I C (仮称) まで約 15 分、京都市にも約 30 分で結ばれることとなります。新名神高速道路の開通時期と足並みを揃えて道路整備することにより、広域道路網の整備効果が広く地域に波及し、地域産業の振興や、お茶の文化を活かした観光客の呼び込み等が期待されています。

#### ●主要地方道宇治木屋線(犬打峠)道路整備



### (仮称) 総合保健福祉施設の建設

和束町では第 4 次総合計画後期基本計画において、保健医療福祉の一体的な提供体制の構築を図るべく総合保健福祉施設の整備を推進することとしていました。

現在の社会福祉センター及び国保診療所については、建築後 50 年以上が経過し、耐震化や老朽化など様々な課題があることから、これらの施設を複合化した、今後のまちづくりの中核的な機能を担う「総合保健福祉施設」を整備する必要があります。

そこで、整備の基本的な考え方、整備すべき機能を定めた基本構想・基本計画を策定し、準備が整い次第、近い将来、役場周辺において着工にとりかかることになっています。



## 1 まちづくりの理念と将来像について

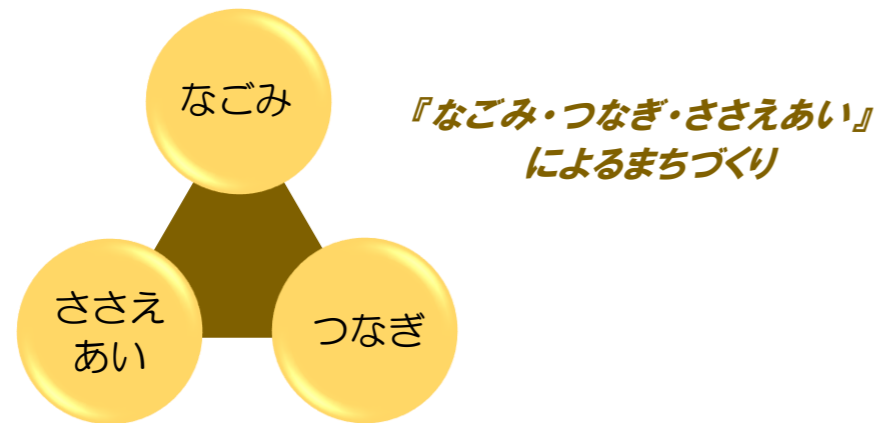
ここでは、議論のたたき台としていただくために、第5次総合計画の「理念」と「将来像」についてのご案内をお示ししています。

### <第5次総合計画の理念>

『理念』とは、今後のまちづくりに関して基本的な考え方となるもので、全ての施策の立案に共通し、また、市民の様々な活動を展開する上でも共有していく考え方（コンセプト）となるものです。

町の規模は小さいですが、“お茶を核とした伝統ある歴史”の蓄積があり、茶畑をはじめとする生業景観では、のどかでゆとりのある暮らしが展開されています。また、この環境を求めて町外からの移住者や、外国人の来訪も年を追うごとに増えてきています。

これまで茶源郷として培ってきた伝統や文化を大切にするとともに、新しい時代に対応した、“自然豊かな素敵な暮らし”を創りあげていくために、まちづくりの理念は次のものとしします。



#### 【なごみとは】

生業景観やお茶の伝統・文化を大切に継承していくとともに、生活の豊かさや利便性を高める新しい技術や、様々な人々との交流を積極的に受け入れ、お茶の香りのように和東流にブレンドされたなごみのあるまちづくりを目指すものです。

#### 【つなぎとは】

お互いの顔が見えるコミュニティを大切に、人とひととの繋がり、地域間の繋がりを強めるとともに、住民・行政・事業者が相互に持ち味や特性を活かした役割分担が機能しているまちづくりを目指すものです。

#### 【ささえあいとは】

保健・医療・福祉が一体となって、幼児から高齢者まで誰もが安心して暮らせる仕組みづくりとともに、次世代を担う子どもたちを地域ぐるみで育て・支えるまちづくりを目指すものです。

### <将来像>

『将来像』とは、目指すまちの姿を端的に表すものです。

住民の方々が将来像を共有し、協働のまちづくりの“合言葉”であるとともに、対外に向けては、“和東町をアピールする言葉”でもあります。

また、第4次総合計画の将来像にも使われている“茶源郷”というのは、近年内外に浸透し始めている言葉であり、第5次総合計画でも継承していく言葉と考えます。

但し、“茶源郷”も、新たな時代環境の変化の中で、新しい生活のあり方を探る必要があり、また、(仮称)犬打峠トンネルの開通等により、和東町が果たすべき役割も変化してきています。

そこで、第5次総合計画における将来像は次のものとしします。

さと さと  
**和の郷、知の郷、茶源郷 和東**

トンネルを抜けると日本の故郷ともいえるべきのどかでなごやかな空間（和の郷）が広がっています。その中で子どもたちは伸びのびと学び・育ち、高齢者は知識や知恵を使ってまちづくりに積極的に参加し、さらに町外からも様々な学び・遊びの場として人々が訪れるまち（知の郷）が展開されている姿を表したものです。

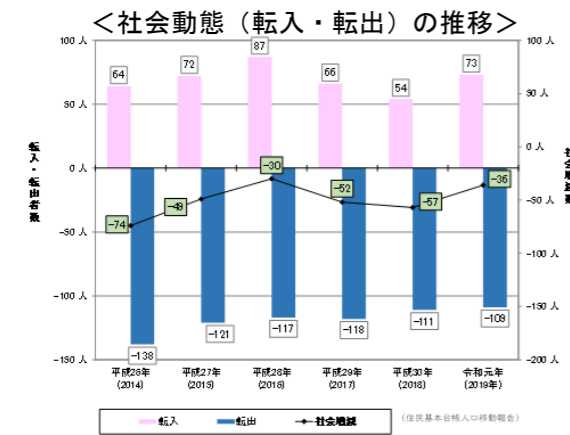
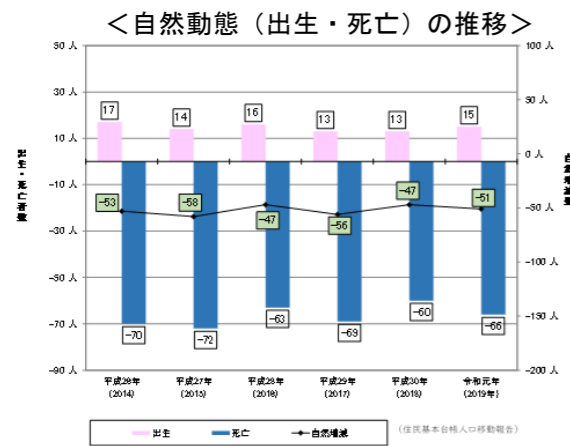
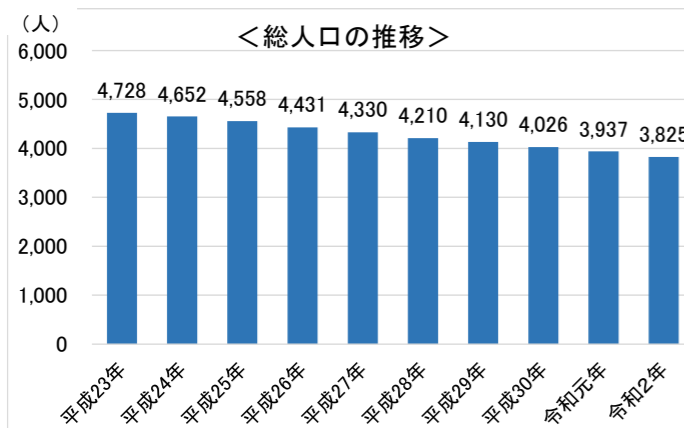
## 2 将来人口・交流人口について（その1）

ここでは、「将来人口」と「交流人口」をどのように設定するかを検討します。

第4次総合計画では、令和2年度の目標人口を「4,300人」と設定しましたが、近年の状況を踏まえ一定の軌道修正が必要と思われます。

### 最近の人口の動き

人口減少は依然続いています。その要因は、移住者を含め転入者は比較的にあるものの、転出者がそれを上回っていること、また、合計特殊出生率が非常に低く（平成30年で1.06）、死亡数が大きく上回っていることによるものです。



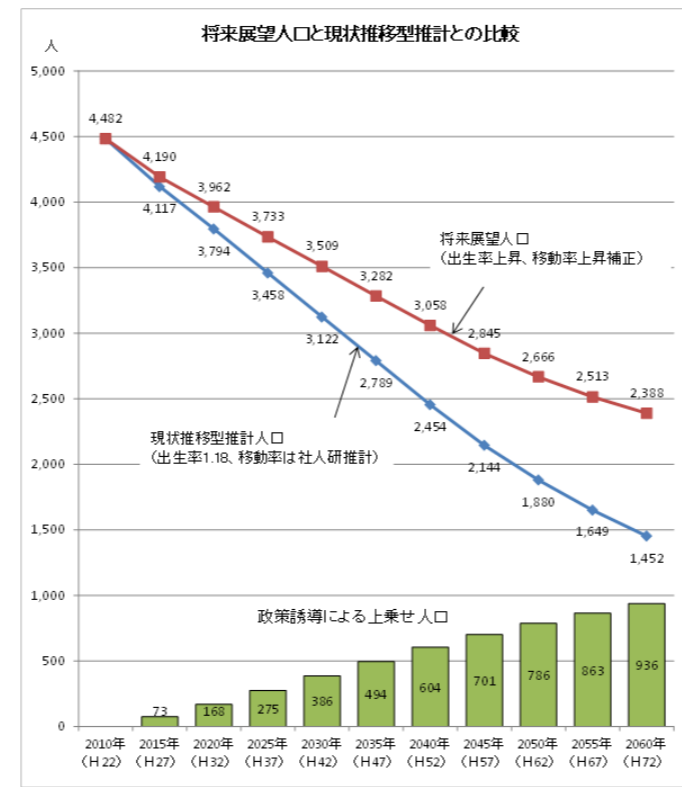
### 第4次総合計画及び人口ビジョンの目標人口

#### 第4次総合計画における目標人口等

平成32年度（令和2年度）将来人口 4,300人  
 〃 〃 交流人口 25万人

#### 人口ビジョンにおける目標人口

令和2年（2020年） 将来人口 4,300人  
 令和12年（2030年） 約3,500人  
 令和22年（2040年） 約3,100人



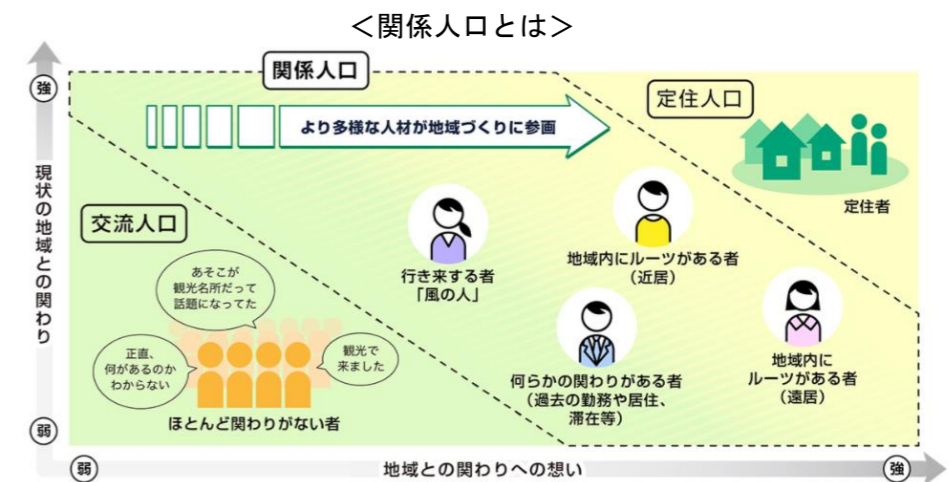
#### 和東町における目標人口設定の考え方

和東町の将来人口「4,300人」という設定は、「定住人口+第2定住人口」=「4,000人+300人」という考え方にたっています。

第2定住人口とは、住民基本台帳と国勢調査とのギャップ（すきま）や援農者等の数字を見込んだものとなっています。

今、国は「関係人口」という捉え方を重要な地域活性化の要因として捉えています。（下図参照）

そこで、第5次総合計画においては、第2定住人口という概念も含みながら、「定住人口+関係人口」という考え方で設定するものとしします。その関係人口というのは和東町に定住はしていないが、何らかの形で関わっている人々のことであり、本町の場合は、役場・保育・教育施設の職員、事業所に働きに来ている方々、あるいは援農という形で一定期間本町に住み茶業を支援してくれる方々などを対象とする考え方をします。



（資料：総務省HP）

## 2 将来人口について（その1）

### 第5次総合計画における将来人口

#### 推計方法

住民基本台帳（各年10月1日）の直近までのデータを使用し、コーホート法による将来人口を推計しました。

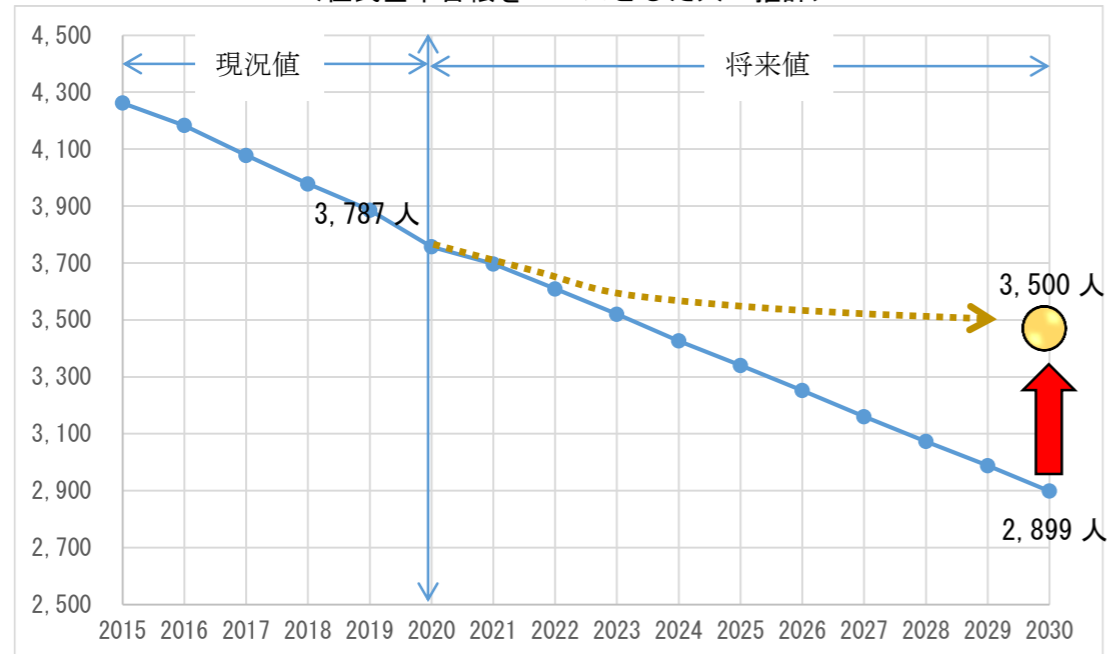
その結果、現在（2020年）の3,787人に対し、10年後の2030年には約900人減少の「2,899人」が見通されます。

#### 第5次総合計画における将来人口（目標値）

このような状況を踏まえ、総合計画で目標とする将来人口は、次のものとします。

令和12年（2030年）	定住人口（住民基本台帳ベース）	3,500人
	関係人口	300人
	↓	
	将来人口	3,800人

<住民基本台帳をベースとした人口推計>



#### 将来人口達成に向けて

現状は、平均すると約90人程度が毎年減少しています。目標値を達成するには、毎年の減少人数を約30人程度に抑える必要があります。

そのためには、次の点について、強力に推進していく必要があります。

#### 【自然動態の面から】

- ① 合計特殊出生率を上げるため、子育て支援策のさらなる充実
- ② 健康寿命を延伸し、生涯にわたって元気に暮らせる福祉対策の充実

#### 【社会動態の面から】

- ③ 移住等の転入を促進するための、受入れ環境や体制の充実
- ④ （仮称）犬打峠トンネルのインパクトを最大限生かし、通勤条件の改良等による就業の場の確保

### 交流人口について

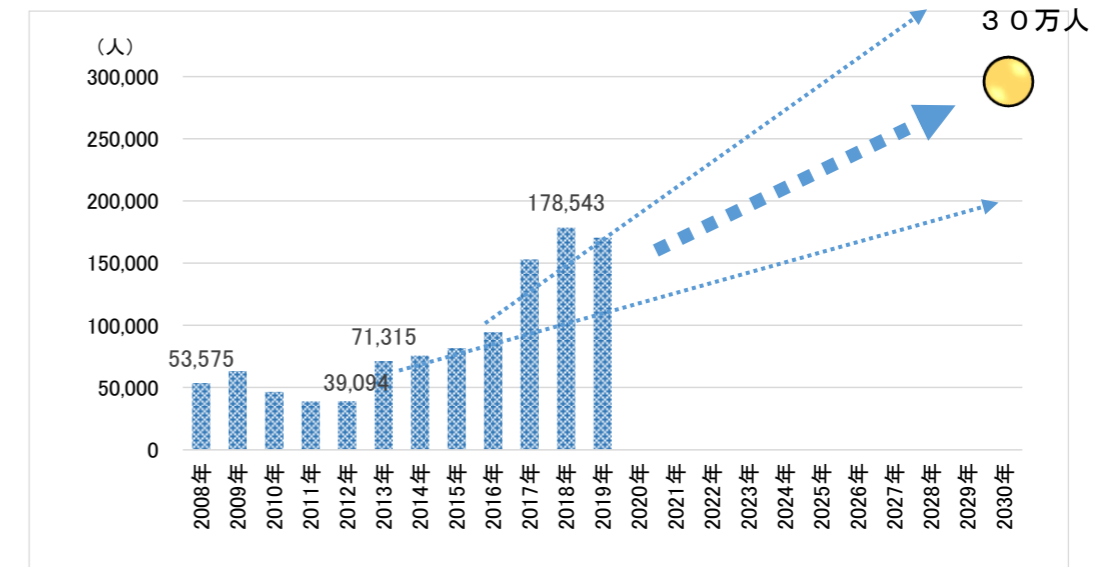
#### 和東町における交流人口設定の考え方

和東町では、観光客数を単なる観光客やイベント参加者だけでなく、“教育観光”による来訪者や外国人観光客も含めて捉え、「交流人口」と称しています。

特に近年、外国人観光客は急激に増えており、コロナ禍が安定した状態になると、また回復していくことが見込まれます。

第4次総合計画では、交流人口「25万人」を目標としましたが、近年の動きや、今後まちづくりの柱として観光・交流を積極的に展開していくこと、また、犬打峠トンネルのインパクト等を含め、第5次総合計画では「30万人」を目標とします。

<交流人口のこれまでの動きと目標値>



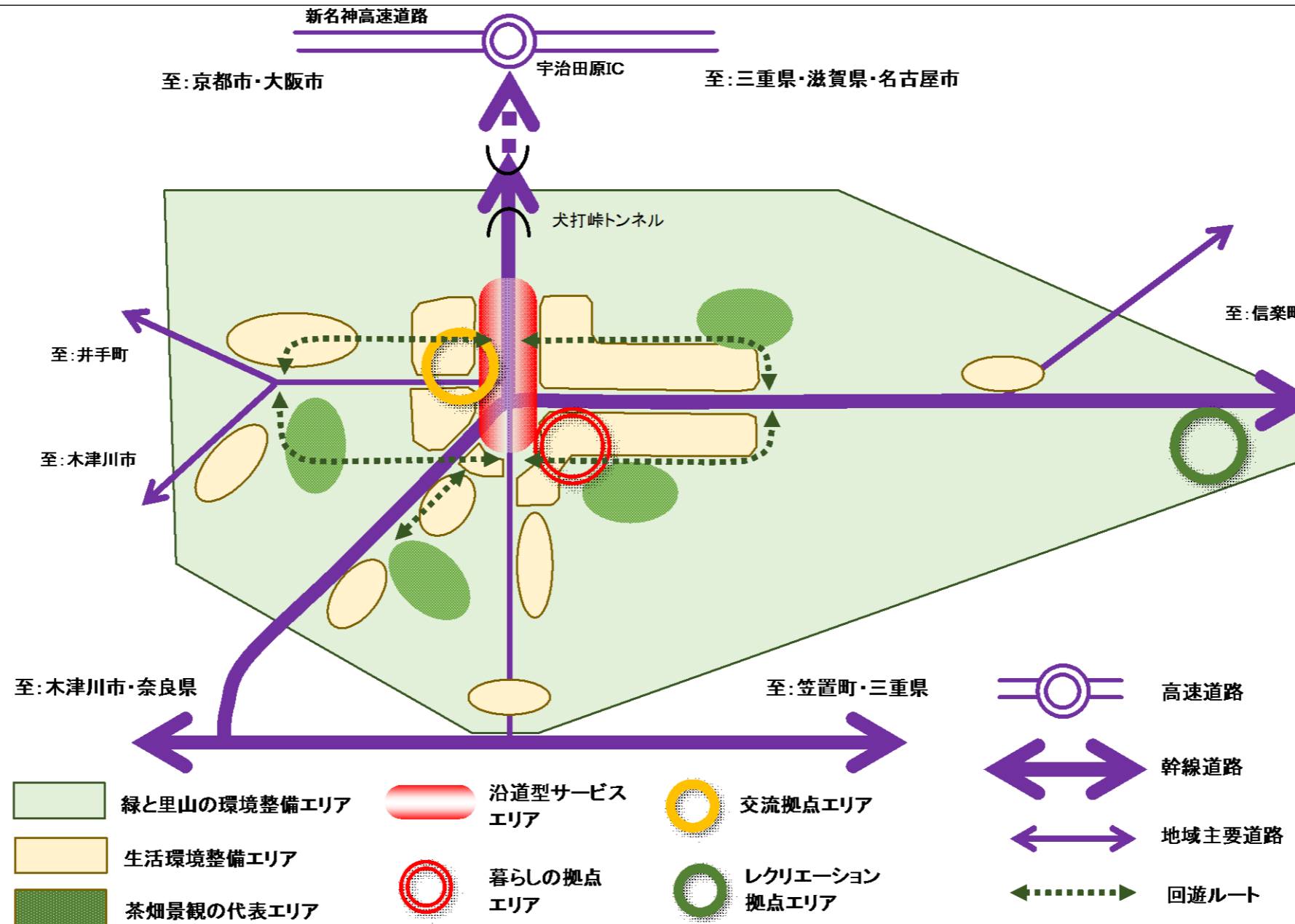
### 3 地域構造について

ここでは、「地域構造」をどのように設定するかを検討します。

今後の地域構造を考える上での大きなインパクトは、「(仮称) 犬打峠トンネル」が開通し、京都・大阪・名古屋といった周辺都市との近接性が大幅に改善されることと、町内においては、役場隣接地に住民の総合的な福祉やコミュニティ拠点となる「(仮称) 総合保健福祉施設」が整備されることです。

#### 【 第5次総合計画の地域構造 】

- 木津信楽線と白栖橋北側の宇治木屋線を幹線道路として位置付ける。
- 和束町全体を緑と里山の環境整備エリアと位置づけ、その中に、既存集落を中心とした生活環境整備エリアが構成されている。
- 役場に隣接し、「(仮称) 総合保健福祉施設」の建設が予定されており、この周辺一帯を「暮らしの拠点エリア」と位置付ける。
- 犬打峠トンネルからの宇治木屋線沿線は、今後新たな流動軸であり「沿道型サービスエリア」とするとともに、グリーンティ和束～運動公園一帯を「交流拠点エリア」として、活性化を図る拠点とする。
- 湯船マウンテンバイクランド周辺は「レクリエーション拠点エリア」と位置づける。
- 町の代表的な茶畑景観エリアを含め、“緑泉コース”を中心とした人の回遊ルートの整備を図る。



## 4 施策の体系について

ここでは、先に示した「課題」との対応を含め、将来像を達成していくために、まちづくり全般にわたって、どのような柱建て（施策の体系）をしていくのかということを検討します。将来像が何になるのかということはありませんが、将来像が何になろうとも、まちづくりの各部門において、今後取り組むべき柱を検討するものであり、将来像と並行して議論するものとします。

